

令和 2 年度「地域活性化推進研究プロジェクト」成果報告書

所属部局名	教育学部／紀州経済史文化史研究所	申請者氏名	大橋直義
研究プロジェクト名	岸和田市の宗教文化財の調査・研究と新たな価値の発見		
当初計画に対する 目標達成率	90	%	研究プロジェクト の終了時期 令和 3 年 3 月
予算配分総額	500,000	円	経費使用総額 円 (担当課で記入)

【研究プロジェクト事業の成果】※具体的に記入してください

◎企画展「泉州 岸和田の宗教文化—高僧伝と寺社縁起—」開催

：紀伊半島価値共創基幹 紀州経済史文化史研究所主催。会場、紀州経済史文化史研究所展示室（西 5 号館 3 階）。会期、2021 年 1 月 21 日（木）～2 月 22 日（月）（会期は当初 26 日までとしていたが前期日程試験の関係上、日程を短縮した）。閉室日、土日祝および図書館休館日。実質的な開室日数は 22 日間。入場時の芳名帳記載人数は 119 名であった（監視員人件費を計上していたが社会情勢を鑑みて学生等を雇用することは控え、可能な限り紀州研関係者で代替した）。岸和田市・光攝寺（岸和田市宮本町）・神於寺（神於町）・極楽寺（極楽寺町）・正覚寺（宮本町）・天性寺（南町）・岸和田稲葉町会・おじかクラブ（人形劇団）の協力を受けた。出陳品目一覧は下記図録および『Kii-Plus ジャーナル』1 号（2021 年 5 月）に掲載されるプロジェクト報告「岸和田・泉州地域の宗教文化の調査・研究・展示事業」に掲載。なお、和歌山大学公式 YouTube チャンネルにてダイジェスト動画を公開している（2021 年 4 月末時点で 64 回視聴）。

<https://www.youtube.com/watch?v=YXaWNJga71g>

◎同展開催記念講演会の開催

：『岸和田市史』『熊取町史』の編纂に関わってこられた地域史家である玉谷哲氏による記念講演会を無聴衆にて開催し、和歌山大学公式 YouTube チャンネルにて動画公開を行なった（2021 年 4 月末時点で 85 回視聴）。

<https://www.youtube.com/watch?v=YXaWNJga71g>

なお、本企画は当初、学外研究者を複数招いたシンポジウムを開催するものとしていたが、残念ながら今般の社会的状況により企画の縮小が余儀なくされ、玉谷氏による講演のみとなった。

◎成果論文（図録）

- ・紀州経済史文化史研究所編『泉州 岸和田の宗教文化—高僧伝と寺社縁起—』（全 32 頁、フルカラー、2021 年 1 月）
- ・大橋直義「エキシビジョンリポート 企画展 泉州 岸和田の宗教文化—高僧伝と寺社縁起」（紀州研ニューズレター『きのみなと』2021 年春号、2021 年 3 月）
- ・大橋直義「天性寺蔵『蛸地蔵縁起絵巻』（天性寺聖地藏尊縁起）についての覚書」（『和歌山大学 Kii-Plus ジャーナル』1 号、2021 年 5 月）

【当初計画段階との対比】※上記目標達成率を判断した理由等

2020 年度の社会情勢によって、当初予定していた東京大学史料編纂所・国文学研究資料館などの研究者を招聘しての調査の実施および講演会の開催は断念せざるを得なかった（20%減）。しかしながら、申請者および紀州経済史文化史研究所教員の調査の頻度を高めることでその不足を補い得、図録の頁数を拡充することで展示史料の全編画像を掲載することが叶ったことにより、成果物の意義が大きく増大した（10%増）。

【今後の展望等】

○ 研究プロジェクトの発展性（根拠に基づき記入）

・岸和田市に関わる文化財の基礎的調査の拡充の可能性：『岸和田市史』が刊行された昭和 50 年代以後、地域の文化財研究を担ってこられた担当者の急逝などによって著しく遅滞していた文化財調査が、和歌山大学および紀伊半島価値共創基幹紀州経済史文化史研究所および申請者が勤務する実践女子大学によって大きく進展する可能性を見いだした。なお、日本遺産に選定された葛城修験関連の調査研究についても、大きな進展が見込まれる分野である。

○ 外部資金等への申請実績及び今後の予定

2021 年度 基盤研究 C 「和泉山脈山麓地域における寺社縁起とその関連資料の基礎的研究：葛城修験と西国順礼」（研究代表者：大橋直義）に申請したものの、遺憾ながら不採択であった（評価 A）。2022 年度には基盤研究 B および挑戦的研究（萌芽）のうちいずれかに本プロジェクトに関わる研究計画を研究代表者として申請する。なお、申請者・大橋は、2020 年度末で和歌山大学を退職しているため、現勤務先である実践女子大学より科研費に申請する（ただし、本プロジェクトに関わった和歌山大学の教員数名に分担者に加わっていただけるよう交渉中である）。

○ 学内における成果の活用（予定も含む）

本プロジェクトに関わって借用している「玉谷家資料」について、整理分類を進めている。今後は紀州経済史文化史研究所を中心とした目録化を経て、学内・学外に公開を進める。

○ 学外における成果の活用（予定も含む）

上記「玉谷家資料」の学外公開に加えて、企画展図録についての問い合わせが複数あることから、本プロジェクトの成果が今後の岸和田市の文化財研究に意義をもたらすことは間違いない。

○ その他特筆すべき事項

【成果の外部公表の方法及び時期】

すでに公表済の成果に加えて、今後、下記の学術論文等を執筆・公開する予定である。

・大橋直義 『神於寺縁起絵巻』攷一中世神於寺と葛城二十八宿一（仮）（『紀州経済史文化史研究所研究紀要』42 号、2021 年 12 月に投稿予定）

・紀州経済史文化史研究所編（大橋直義文責）「展示品目録 附解説」（紀州研HP にアップロード）

※研究プロジェクトの内容・成果等がわかるポンチ絵（写真・挿絵など）や関係資料を添付してください。

経費等使用調査								
配分額	500,000 円		支出額	499,716 円		残額	284 円	
経費別内訳対比表								
区 分	配分額				支出額			
	内容	員数	単価 (円)	金額 (円)	内容	員数	単価 (円)	金額 (円)
人件費	展覧会監視員人件費	144	900	130,000				
	計			130,000				0
備品費								
	計			0				0
運営費	調査旅費 (都内より 1 泊 2 日)	4	50,000	200,000	フライヤー印刷費	300	132	39,600
	講師謝金	2	20,000	40,000	フライヤー発送費	9	250	2,250
	図録刊行費 (一部)	1	100,000	100,000	図録刊行費	1,500	302.5	453,750
	調査資材一式 (中性紙保存箱等)	1	30,000	30,000	複写機用紙	2	1,485	2,970
					マッキー細字	4	87	348
					クリアホルダー (100 枚入り)	1	798	798
	計			370,000				499,716
合 計			500,000				499,716	